

「音響・照明の仕事」活動紹介

■ 講師：〔氏名〕 伊藤 幸夫 先生、畠山 佳也 先生
〔所属〕 株式会社 東北共立

■ 参加人数 31 人

講座担当者 小村田 貴寛

音響・照明の仕事について株式会社東北共立から伊藤幸夫先生と畠山佳也先生をお招きしてお話いただきました。裏方としてステージを見えない場所から支えている音響や照明の具体的な機材の配置や使い方を教えていただきました。途中、実際に音響や照明を調整する機材に触れさせていただき、多くの質問にもお答えいただきました。

1. 「音響・照明の業務内容」

音響や照明の機材を使いこなし、舞台やコンサートなどでの演出や技術的なサポートを行います。マイクやライトなどの機材を用途に合わせて設置することで全ての聴衆が良い響きで聞けるようにしたり、出演者の魅力を引き出すライティングをしたりします。音響では演者とサインのやり取りをしながら音量や音質を調整していること、照明では演者の立ち位置によって角度をしっかりと調整したり使われるライトの種類や色を変えたりしているといった工夫や苦勞をお話いただきました。



2. 「体験活動」マイクのリバーブ体験とミキサーとスポットライトの操作体験

実際にエフェクターをかけたマイクの前に立ち、様々なリバーブの効果を体験させていただきました。普通に話をしている声がマイクを通すことで加工されて響き渡ることを体感できました。ミキサー室では詳しく機材の説明をしていただきました。ピンスポットライトの操作体験では、ステージ上の演者に光を当てて、舞台の演出に合わせた演者を引き立たせるという照明の効果について体感することができました。



3. 質疑応答から

Q. 照明や音響はどうやってピッタリと音を鳴らしたり光らせたりするんですか。

A. 回線表というものをあらかじめ作って対応しています。また、リアルタイムでも適切な状況を作るために、演者とサインのやり取りをしています。

Q. ライブの開演前にはどういうことをしていますか。

A. お客さんが入る前に機材のセッティングや確認などを入念に行い、お客さんが入ってからは本番に備えてご飯を食べています。

4. まとめ

「楽しいことと大変なことは半分半分であるが、自分が好きでやっている仕事だからやりがいを持ってできている。とにかく怪我をしないことを心掛けている。自分の怪我が原因でコンサートが中止になってしまっは大変だから。センスが大事な仕事です。」とお話されていました。「音響や音楽の仕事にはいろんなジャンルがあります。どのような仕事をやりたいかを明確に決めて進んでいくことが大切です。」とアドバイスをいただきました。

5. 児童生徒の感想紹介

○ 思っていたこととは違うこともあったけど、それが「本当のこと」か「違うこと」か分かることができて良かったです。 (蒲町小 6年生)

○ 音響・照明の仕事は、技術力の塊かと思っていましたが、案外「センス」も大事だと知り驚きました。とても楽しそうな仕事だと思いました。 (南中山中 2年生)

「消防士の仕事」活動紹介

■ 講師：〔氏名〕 千田 真一 先生、小林 剛 先生
〔所属〕 宮城野消防署 警防課

■ 参加人数 23 人

講座担当者 高野 剛

宮城野消防署で勤務されている2名の消防士を講師としてお迎えし、消防の仕事について教えていただきました。命を守る最前線で仕事をしている先生方から、どんな仕事をどんな思いで行っているのか、クイズや体験を交えながら楽しく学ぶことができました。

1. 消防の仕事

講師の小林先生より、映像を使って、消防の仕事について詳しくお話いただきました。消防の仕事は多岐にわたり、消火活動を行う警防隊、病気やけがをした人の救急活動を行う救急隊、人命救助を専門にする救助隊、各隊への指揮や安全管理を行う指揮隊等、職務に応じた様々な部署があります。各部署の仕事の内容や消防士になったきっかけ、消防士になるために必要なことについて分かりやすく教えていただきました。最後に、火災現場で実際に使用している防火服やマスク、広報車の見学などを行い、消防の仕事への興味をますます深めることができました。



2. 救急の仕事

救急隊は、救急現場や救急車内で病気や怪我をした人に対し、応急処置や医療行為を行い、病院へ搬送する仕事をしています。救急車には、救急救命士と普通の救急隊員が乗車しています。救命救急士は、応急処置に加え点滴や投薬などの医療行為を行うことができる国家資格です。救急隊の仕事の良さは、誰もが知っている仕事であり誇りを持てること、感謝されることが多いこと、やりがいを感じるところであることを知り、こどもたちも真剣な眼差しでお話を聞きながら救急隊の仕事への理解を深めていました。後半では、3人グループに分かれて聴診器を使った心音や呼吸音の聴取、胸骨圧迫や器具を使っての人工呼吸などの救命救急法体験を協力して行いました。



3. 質疑応答から

Q. これまでで辛かった訓練はどんなものでしたか？

A. 何度も繰り返す懸垂です。訓練は大変ですが、命を守るためには必要なことなので頑張っています。

Q. 火災が多い時期はいつですか？

A. 秋から、冬にかけてです。空気が乾燥していることに加え、暖房器具に洗濯物がかかってしまい、火が出してしまうといった場合もあります。みなさんも気を付けてください。

4. まとめ

消防士や救急救命士の仕事は、命を守る最前線で常に緊張感のあるものだということを学ぶことができました。1日の中ではたくさんの出動要請があり、休む間もなく現場へ駆けつけなければならない仕事であることや、常日頃からの訓練や学習がとても重要であることを知りました。また、良い仕事に出会えるためにできることは、自分で限界を決めないこと、出会いを大事にすること、常に前向きな考えをすることだと教わりました。

5. 児童生徒の感想紹介

- 消防士の仕事はやりがいもあるけど大変なこともあることが分かりました。体験をしてみて酸素ボンベがとても重かったです。消防士の1日を知ることができて楽しかったです。(館小 6年生)
- 消防士の仕事の講座をやってみて思ったことは、服が重かったり心臓マッサージで疲れたり辛かったりして、思った以上に大変だったけれど、将来やってみたいと思いました。(鹿野小 5年)

「テレビ局の仕事」活動紹介

■ 講師：〔氏名〕 古野 真也 先生
〔所属〕 東北放送営業局 テレビ部

■ 参加人数 34 人

講座担当者 中谷 武司

東北放送(TBC)の営業局テレビ部は、テレビ番組の広告営業を担当する部署です。具体的には、企業や団体からの広告出稿を募り、番組のスポンサー獲得やCM枠の販売などを行います。また、営業戦略の立案や、クライアントとの折衝も重要な業務です。主に広告の内容やテレビの裏側について詳しくお話をしていただきました。

1. 一つのテレビ番組に関わる人

宮城県にはいくつかのテレビ局があり、見たことのある番組や、興味のある番組について、こどもたちと話を交わしました。ご自身が担当したある番組を通して、放送1つだけでもたくさんの人が関わっていることを伝えていました。こどもたちからたくさんのテレビに関する回答がでてきて、意欲的に話を聞いていました。



2. 重要な裏方の仕事

後半はテレビ局の仕事の種類や裏方の仕事にはどんなものがあるのかを詳しく話されていました。どの裏方の仕事も番組を作ることに重要な役割であると伝えられてました。この講座に参加するこどもたちに向けてのテレビ局の先輩の方々からのビデオメッセージには生き生きと子どもたちが目を輝かせて聞いていたのが印象的でした。



3. 質疑応答から

Q. テレビにはCMが流れますが、お金はどれくらいかかるのですか？

A. 広告費用は時間帯によってかなり変わります。とくに19時のゴールデンタイムはみんながテレビをよく見る時間なので高く、夜中は安く設定されています。

Q. テレビ局の仕事に就くには、今何をしたらよいですか？

A. 今、自分が興味あることを一生懸命にやることと、ある程度学校の勉強をがんばることです。楽しいと思うことにチャレンジしてみてください。

4. まとめ

放送局にはたくさんの仕事があり、表に出ている人はほんの一部で、その裏で多くの人が番組を支えていることを伝えていました。みんなで1つの情報番組をできるだけ分かりやすく、楽しく伝えていきたいという思いを感じました。番組の裏方の映像や具体的にどんな仕事があるのかを知ることで、放送局という仕事が身近に感じられたと思います。感想から、こどもたちはより強くテレビ局で働いてみたいという気持ちになったようです。

5. 児童生徒の感想紹介

- テレビ局の仕事はたくさんの人が関わっていることが分かりました。さらに、CMにはたくさんのお金がかかっていることを初めて知りました。(榴岡小 6年生)
- 今まで当たり前のようにみていたテレビがたくさんの人の働きの上に成り立っていることを知り、ありがたく感じました。(五橋中 1年生)

「児童文学作家の仕事」活動紹介

■ 講師：〔氏名〕 佐々木 ひとみ 先生

■ 参加人数 23 人

講座担当者 伊世 貴志

児童文学作家として仙台を拠点に創作活動が続けるとともに、コピーライターとしても活動している佐々木先生を講師としてお招きしました。前半は、先生のこれまでの歩みや、ふるさとの魅力を伝えたいという思いなどを学びました。後半は物語の「種」を見付けるために、参加者同士インタビューし合い、「種」を発表する体験活動を行いました。

1. 児童文学作家になるまでの歩み

茨城県ののどかな山里に生まれた先生は、こども時代に、絵本、児童文学、漫画など様々な本と出会ったことが作家の道を歩むきっかけとなりました。コピーライターの仕事に就いた後、どこかの誰かの「心の栄養」になるような作品を届けたいという思いから、様々な文学作品、そして、幼いころ親しんだようなこども向けの物語を執筆するようになりました。ふるさとは「宝」があることに気付いた先生は、その土地の宝物を見つけて磨き上げ、自分だけの物語を書こうという思いを強く抱き、ふるさとの魅力を伝える数々の児童文学作品を執筆してきました。



2. 作家体験「取材をして物語の種を見付けて発表しよう」

ふるさとの魅力を散りばめた文学作品を書くためには、その土地の人々に取材をして「おもしろい」と感じるものを見付けることが大切。それを体験するために、隣の人に2分間質問をし、「物語の種」となりそうなものを探し、1分間で発表するという活動をしました。会場で初めて出会った隣の子に、緊張しながらも趣味や最近の出来事などをしっかりと質問し、参加者23人全員が堂々と発表することができました。



3. 質疑応答から

Q. 作家になるために大切なことは何ですか。

A. 様々なことを吸収できる若い時期に、多くの本と出会い「本貯金」をすることが大切です。日々の学校の勉強も、作家のための取材だと思って取り組むと良いです。

Q. 本を書いている時は楽しいですか。

A. 実は苦しいことが多いです。しかし、その先に何も無いところから物語が立ち上がる感動や、読者と出会った時の喜びがあることを知っているので、書き続けています。

4. まとめ

自分が生まれ育ったふるさとの興味を持ち、誇らしく思えるようになると、自分自身にも誇りが持てるようになります。ふるさとを愛することは、揺るぎない土台を作ることにつながります。ふるさとの「今」を児童文学に仕立ててこどもたちに伝えることで、いつの日か失われた風景や風習が復活するかもしれない。物語がその手掛かりになればよい。児童文学を通して、ふるさとの魅力を伝えたい。仙台・宮城の力になりたい。そのような熱い思いを抱き、佐々木先生は物語を書いていることに、皆感銘を受けていました。

5. 児童生徒の感想紹介

○ 本を読んだり様々な体験をしたりして、すてきな物語が書けるのだと分かりました。先生のように本を読んで、夢を広げていきたいと思いました。(小松島小 5年生)

○ 幼稚園の先生になりたいので、絵本についてお話を聞けて良かったです。先生の思いを知った今、再度本を読めば本への考えも深まると思いました。(錦ヶ丘中 2年生)

「WEBデザイナーの仕事」活動紹介

■ 講師：〔氏名〕 漆畑 聖香 先生、鈴木 拓真 先生、木戸 里美 先生
〔所属〕 株式会社 メンバーズ

■ 参加人数 23 人

講座担当者 峯 亮

3名の講師の方々に、WEBデザインの基礎を丁寧に教えていただきました。参加者は、魅力あるWEBデザイン広告を作成する体験を通して仕事について考えました。

1. WEBデザイナーの仕事とは デザインの基礎知識

情報の構成を設計し、方向性を決めてデザインするWEBデザイナーだけではなく、クライアント窓口のディレクターや、システムを動かようにするコーダーという仕事があり、一つのチームとなって仕事をしていることを教えていただきました。また、三大要素である「もじ」（上質さ、カジュアル）、「いろ」（情熱、親しみ、安らぎ）、「かたち」（形による印象）について具体例を交えながら説明を受け、基礎知識を学ぶことができました。



2. グループワーク

デザイン会社「楽学」に仙台市から依頼があったと想定し、仙台七夕まつりにもっとたくさんの人が来るような広告を考える課題に取り組みました。最初はグループ内のみんなで悩んでいましたが、前半に学んだデザインの基礎知識を生かし、WEBページの配置づくりに取り組みました。最後に、デザインした作品を提示して自分たちの考えを発表しました。講師の方からはよかったところを取り上げて講評をいただきました。



3. 質疑応答から

Q. 今からできることや、勉強できることなどはありますか？

A. 普段の授業を真剣に聞いたり、デザインの歴史や知識を学んだりすることも大切ですが、世の中をよく観察して分析してみることがデザイナーとしての第一歩です。

Q. 絵を描くのが好きですが、どのような人がこの仕事に向いていますか？

A. WEB業界は、流行り廃りなどの変化が激しい業界です。その変化についていけるような好奇心が旺盛な人が特に向いていると思います。

4. まとめ

普段何気なく目にしている広告には、多くの人が関わっていて、多くの時間が使われていることを教えていただきました。また、WEBデザイナーの仕事は、一人で静かに依頼された内容をデザインする仕事だけではなく、話し合ったり、考えたりする時間が多いことを学びました。その中で、チームワークやコミュニケーション能力がとても大切であることもお話しいただきました。

5. 児童生徒の感想紹介

○ WEBデザイナーの仕事は、デザインだけではなく、話し合いや考えることが多いと思いました。
(錦ヶ丘小 5年生)

○ ディレクターさんやコーダーさんなど様々な人と話し合って、依頼に合ったデザインが完成すると分かりました。
(人來田中 2年生)

「薬剤師の仕事」活動紹介

- 講師：〔氏名〕 森 雅之先生
〔所属〕 仙台オープン病院 薬剤部
- 参加人数 33 人

講座担当者 針生 真由美

「薬剤師の仕事」では、何十年と現場経験のある、仙台オープン病院の薬剤部の森雅之先生を講師としてお迎えし、実践を交えながら教えていただきました。

1. 薬剤師の仕事

薬剤師になるまでの資格等や、一日の仕事の内容について理解を深めながら、処方箋に基づいて薬を調剤し、用法や用量、注意点等を説明しながら、患者さんお薬を処方する専門家であることを学びました。その他に、医師とコミュニケーションを図りながら、常に患者さんの立場に合った薬の提案等連携の大切さも学びました。また、千数百種類という薬を扱う仕事であることや患者さんの命を預かるという責任の重さも同時に伝えて頂きました。



2. 実践体験～処方してみよう～

実際の体験では、こどもたちが二人一組となり、白色ワセリンを患者さんに処方する体験を行いました。患者さんへの丁寧な説明の仕方に戸惑う子も居ましたが、真剣に取り組んでいました。その他に、輸液（液体）を注射の中に移す作業も体験しましたが、液を片手で注射ポンプに移す作業に苦労する子が多く、経験することの大切さも体験を通して、学ぶことが出来ました。薬剤師のお仕事は、簡単そうに見えて、奥が深い部分も学ぶことが出来ました。



3. 質疑応答から

- Q. 薬剤師を目指すことで、両親から反対されましたか。
- A. 反対はなく、自分で決めた道を最後までやり抜いて欲しいと応援された。
- Q. やっていて良かったことは何ですか。
- A. 患者さんの体調が良くなったりして感謝された時が一番うれしい。

4. まとめ

薬剤師は、医師が出す処方箋をもとに、薬を正しく調剤する。飲み合わせや副作用がないかをチェックしながら、リスクを防ぐようにし、使い方や注意点をわかりやすく説明することが何よりも大事であること。また、薬の品質を守るために、保管や管理を徹底することも仕事としてあること。最後に、医師や看護師とのコミュニケーションも大切にしながら、患者さんを第一に考えて、正しい処方を徹底することを伝えて頂きました。

5. 児童生徒の感想紹介

- 薬剤師のお話を聞いて、とても勉強になりました。薬剤師は責任感があってカッコいいと思いました。処方箋通りに薬を作って、薬剤師になった気がして、とても楽しかったです。
(長町小 5年生)
- 今までネットなどの情報から薬剤師の仕事を知ることがありましたが、今日実際に仕事をしている方から具体的な仕事内容や薬の種類、実技まですることができて、更に薬剤師になりたい思いが強くなりました。
(人來田中 2年生)

「栄養士の仕事」活動紹介

■ 講師：〔氏名〕 星 由美子 先生
〔所属〕 仙台青葉学院短期大学

■ 参加人数 21 人

講座担当者 鎌倉 洋志

一言に栄養士と言っても、対象者のライフステージによってニーズは異なり、それぞれに合わせた食事を作る仕事であることを学びました。

プロ野球選手の太田選手の例を取り上げたり、栄養士になるための資格について紹介したりして、身近で具体的な話を聞くことができました。仙台青葉学院短期大学から学生の参加もあり、活気のある講座となりました。

1. 栄養士の仕事について

栄養士や管理栄養士の資格を持つ方々は、学校や病院、スポーツクラブ、研究機関など、身近にあるたくさんの施設や機関で働いているとのことでした。

栄養士＝給食の先生をイメージしていた受講生たちは、栄養士や管理栄養士が、様々なライフステージにおいて、その資格を生かして活躍することができることを学びました。



2. カードの分類を通して学びを深める

カードを分類してバランスの良い食事について学ぶ場面では、お互いに交流して学びを深めました。「お年寄りだったら」「運動部で激しい活動をする高校生だったら」と様々なケースで献立を考えることができました。

栄養士として、様々な人と関わり合うので、コミュニケーション力がとても大切なこと、また小学校や中学校での基礎学力が重要だというお話もあり、参加者は心に響いた様子でした。



3. 質疑応答から

Q. 学校栄養士の時に、最も大切にされたことは何ですか。

A. カロリーとタンパク質をしっかりと確保できるように考えたことです。

Q. 栄養士のなるために、一番大切な教科は何ですか。

A. 国語と算数だと思います。基礎学力は必要です。また、話したり聞いたりする力もとても大切です。

4. まとめ

栄養士や管理栄養士としてどのような場所で働いているのか、どうすれば資格を取得することができるのか等、具体的な話がありました。参加者が知らなかったことも多くあったようです。また、それぞれの学校や日常生活で大切にすべき学びについての話があり、受講生たちはうなずきながら熱心に聞いていました。

5. 児童生徒の感想紹介

○ 意外なところに栄養士が関わっていることを知って、びっくりしました。また、スポーツ選手についている栄養士がいることに驚きました。(若林小 6年生)

○ 栄養士は、コミュニケーションが大切だと知り、日々の会話やあいさつを大切にしようと思いました。(三条中 3年生)

「洋菓子職人の仕事」活動紹介

■ 講師：〔氏名〕 渡邊 靖水 先生
〔所属〕 (有)とびばいさ 甘座

■ 参加人数 28 人

講座担当者 鈴木 峻

仙台の定禅寺通にある「とびばいさ甘座」で工場長としてお勤めの渡邊靖水さんから、洋菓子職人になるまでや、なってから努力されていることなどのお話をさせていただきました。マジパンを使っての実演では、職人の技を披露していただき、あっという間に美しいバラや可愛いクマの飾り付けが出来上がりました。

1. 洋菓子職人になるまで

渡邊さんは、ご家族が和菓子や洋菓子のお店を営んでいたため、幼い時からお菓子を身近に感じて育ちました。しかし、初めから洋菓子職人を目指した訳ではありませんでした。幼稚園の先生や美術の先生、アニメーターなどになりたい職業は様々変わっていったそうです。そんな中、ご実家の工場で働く職人の方々にお菓子作りを教わるうちに「自分も作ってみたい!」という思いを募らせ、お菓子作りが大好きになっていきました。「好きだから突き詰められる」「好きの気持ち がパワーになる」というお話と、実際に渡邊さんが作られたケーキやシュガークラフトの作品を目の当たりにして、こどもたちは真剣に聞き入っていました。



2. 洋菓子職人の仕事 ～マジパン細工～

講座の後半には、渡邊さんがマジパンを使っての実演をしてくださいました。こどもたちは、試食で味見をしたマジパンが、目の前で美しいバラに変わっていく様子や、非常に小さい1粒の細工がクマを一瞬で可愛らしい表情に変える様子を見学しました。また、こどもからグラデーションの付け方を聞かれ、実際にその場で色を混ぜ合わせて思い通りの色を表現する技を見せていただきました。その他にも、渡邊さんがこれまで取得してこられた免許や資格を見せていただきました。



3. 質疑応答から

Q. 洋菓子職人として働く中で一番難しいことは何ですか？

A. 体調管理です。何十キロもある粉や砂糖を扱うこともあり、力仕事です。また焼き釜がある部屋は暑く、クリームを扱う部屋は寒いです。いつでも笑顔で同じケーキが作れるようにしています。

Q. 免許や資格は絶対必要ですか？

A. 絶対ではありませんが、食の道に進むなら持っていた方が良いです。しっかりと勉強してきたという証になります。また、取得のための勉強を通して、できることが増えたり、自分の幅が広がったりします。

4. まとめ

第1回の楽学プロジェクトから関わり、長年講師を務められている渡邊さんは、毎年こどもたちとの出会いを楽しみにしてくださっています。「ケーキが好き」「ケーキ屋さんになりたい」という夢を持ったこどもたちに、様々なご経験を通して感じた喜びや思い、ご苦労や実際の働き方など幅広く伝えていただきました。また、多くの質問にも真剣にお答えいただき、充実した講座となりました。

5. 児童生徒の感想紹介

- ケーキ屋さんになるためには、夢をたくさんもっているといいことや、積み重ねが大事で諦めずに頑張るといいことが分かりました。(柳生小 5年生)
- 先生がなぜ洋菓子職人になったのかや、お菓子作りで気を付けていることなどを教えてくれて、将来のために生かせるなと思いました。(通町小 5年生)